

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

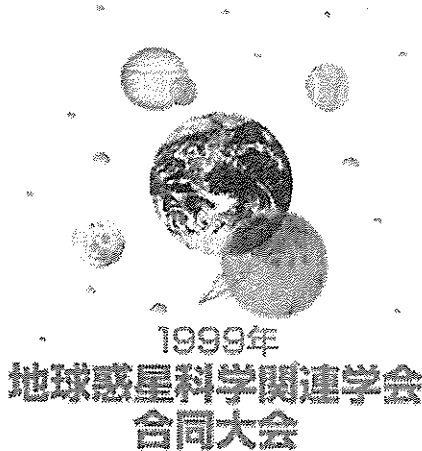
<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/>

第164号 会 報 1999年2月17日

目 次

1999年地球惑星科学関連学会合同大会	SGEPSSホームページ掲示板・フォーラムの
SGEPSS固有セッションスケジュール概要 1	電子メール配信について 9
第20期役員選挙結果 2	人事公募 10
第198・201回合同運営委員会報告 3	教官公募結果報告 11
EPS運営委員会議事録 4	学会基金による国際学術交流事業援助申請募集 11
NEWS 6	研究助成案内 11
地球電磁気・地球惑星圏学会評議員会議事要旨 ... 7	SGEPSS Calendar 12

1999年地球惑星科学関連学会合同大会 SGEPSS 固有セッションスケジュール概要



1999年地球惑星科学関連学会合同大会が下記のとおり開催されます。

日程：1999年6月8日（火）～11日（金）
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
TEL.03-3467-7201（代）
FAX.03-3466-7010・03-3467-7797
<http://www.nyc.go.jp/>

交通：

- 小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分
- 京王帝都バス
新宿駅西口（16番）または、渋谷駅南口（14番）より乗車、代々木5丁目で下車
- 地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分

参加登録締切
宿泊登録締切

1999年3月31日午後5時
1999年3月31日午後5時

第198・201回合同運営委員会報告

日時：1999年2月12日 14:30-17:00

場所：東京大学本郷理学部1号館710室

<第19期委員>

出席：河野長、星野真弘、田中良和、三宅互、
家森俊彦、岩上直幹、早川基、大村善治、
津田敏隆、湯元清文、横山由紀子、笹井洋一

欠席：小野高幸、渡辺亮、高橋主衛

<第20期委員>

出席：松本紘、星野真弘、田中良和、品川裕之、
歌田久司、綱川秀夫、家森俊彦、山崎俊嗣、
岩上直幹、早川基、大村善治、津田敏隆、
(湯元清文、横山由紀子、笹井洋一)

欠席：小野高幸、井口博夫、麻生武彦

1. 前回議事録検討

誤字修正の後、承認された。

2. 委員会など報告

・環境関連学会協議会より「地球環境科学基礎講座」の出版準備状況の報告があった。
・地球惑星科学関連学会連絡会より合同大会の準備状況の説明があり、投稿・登録状況が悪いのでwebあるいは電子メールを用いて促進を図ることとした。また、WPGM2000の準備状況について報告があった。合同学会web投稿システムを秋の講演会の投稿システムとして使うことができるように交渉することとした。

3. 役員選挙結果報告

第20期の会長・評議員・運営委員の選挙結果が報告され承認された。(別記事参照)

4. EPS誌運営委員会報告

(1) EPS誌の内容充実・購読拡大にむけてのアイデアを検討していること、(2) 補助金200万円を100万円に減らしたいとの地震学会からの要請をEPS誌運営委員会としては承認したこと、(3) 論文要旨などをwebに掲載したいとのテラバブからの提案を推進すること、(4) テラバブによる文部省への補助金申請状況の把握に務めていること、(5) 本誌編集委員長が学部長になるためサポート体制を検討していること、などが報告された。特に(2)については分割払いなども含め、覚え書きになるべく沿った実行を再度要求するよう本運営委員会としては要請することとした。

5. 新入会員承認・退会者確認

以下の会員の入退会が承認された。

<新入会員>

松井 洋 (京都大学COE研究員)
藤井 純子 (福井大学教務職員)

Mohammad Ali (パキスタン地質調査所職員)

広島 友維 (東京工業大学 M1)

伊東 理子 (東京工業大学 B4)

望月 伸竜 (東京工業大学 B4)

中西 無我 (東京工業大学 B4)

高橋 太 (東京工業大学 B4)

今坂 尚登 (東京工業大学 M1)

<退会者>

加藤 昭七郎 (工学院大学)

山口 又新

近角 聡信

北川 創 (東京大学)

太田 征次郎

小坂 由須人 (仙台市天文台)

常本 直貴

6. 学会連合

昨年11月末に集計した各学会へ宛てたアンケート結果に基づき、当面重大な決定ができるような意見の一致はなかったが、これからも年数回の連絡によって連合への努力を続けるとの報告があった。

*ここで第19期会長および運営委員会の実質上の役割が終了し、河野会長から第19期運営委員に対し、謝意が表明された。

7. 第20期運営委員の役割分担

他学会との交流を通じて学会活動を活性化させると共に、学会内部の運営体制においても既に運営委員を経験した人達の見識を反映させる工夫をしたいという意向が松本新会長より表明された。第20期運営委員の役割分担が議論され、以下の役割分担が決められた。

総務：大村、岩上 (補佐)

庶務：麻生 (会報)、家森 (web)、井口 (web)

会計：星野、山崎 (笹井 補佐)

雑誌：小野、山崎 (横山 補佐)

IUGG・学会連合：歌田、津田 (湯元 補佐)

WPGM・合同大会連絡会委員：早川、綱川

地学連絡協議会：星野、綱川

環境科学学会協議会：岩上

大会・プログラムおよび学会活動：

品川、田中、小野、歌田

会員名簿：家森

次期運営委員会で、大林奨励賞選考委員会および長谷川・永田賞選考委員会のメンバーを指名する。運営委員の諸役の引継ぎを考慮して、次期の選挙では14名の運営委員の内、12名を選挙で選び、2名を会長指名とする等の工夫が必要であるとの意見が出された。新役員の任期は本日からとし、近く開催予定の諸委員会は新役員が出席する。

EPS 運営委員会議事録 (1998 年第 1 回)

横山 由紀子

日 時：1998年12月22日 (火) 13:00-15:50

場 所：東京大学理学部新1号館 709号室-713号室

出席者：小野高幸、横山由紀子 (SGEPSS)、
末広潔 (地震)、宇都浩三 (火山)、
比屋根肇 (惑星)

1. 運営委員会開催について

議長 (比屋根) から最初に次のような報告があった。EPSが発刊されて最初の年であり、運営委員会としてもEPSの発行状況を見る必要があったこと、途中EPS発送のトラブルが生じ、その対応に追われたこと等の理由により、EPS運営委員会の開催が今の時期になってしまった。本歳編集委員長の方から、編集委員会・運営委員会合同の会議を開きたい旨の申し入れがあったが、今回は日程の都合がつかなかったため見送りとなった。しかし、来年の早い時期に、再度日程調整をして合同の会議が開けるようにしたい。出版社の押田さんにも出席を依頼しようと考えたが、議題が多いため今回は見送った。編集委員会との合同の会議のときに出席していただけたらと思う。

2. EPS 発送のトラブルについて

旧JPEからの継続講読者、新規講読者への発送のトラブルが現在でも続いている例があることが判明したため、運営委員会として、テラバブからEPS講読者リストを入手し、各学会で至急チェックすることにした。12月21日にテラバブから送られてきたEPS講読者リスト (SGEPSS会員、海外機関講読を除く) のコピーが配付された。

なお、このリストではEPSが届かなかった送付先については形式的に抹消された状態になっている。これらの送付先についても住所の誤り、EPS講読の有無を確認する必要があるため、至急テラバブから抹消された人のリストを入手する予定である。リストの不備は、来年1月 (編集委員会との合同の会議まで) には解消するようにしたい。

なお、テラバブによると、引き継いだJPE講読者リストに多数の誤りがあったことが発送のトラブルの原因になったとのこと。しかし末広委員からは、同じリストをチェックしたが、誤りはごく一部に限られていたとの報告があった。

3. 地震学会からの補助金の減額要請について

議長から次のような報告があった。地震学会か

ら、学会の法人化の方針が決まり、学会財政の見直しを迫られているため、当初予定していた地震学会からの補助金額 (年200万円) を減額して欲しい旨の申し入れがあった。これを受けて、本歳EPS編集委員長と話し合ったところ、編集委員会としては、(1)今年に関しては、予定されていたページ数 (1000-1100ページ) の範囲におさまる見込みであり、超過ページに対する追加支出は考えなくても済みそうである、(2)しかし、現時点ではEPS発行が軌道に乗ったとは考えておらず、補助金が減らされることにより、総ページ数の制約などで編集上過度のプレッシャーを与えて欲しくないとの強い希望がある、(3)しかし地震学会の財政的な事情もよくわかる、とのことであった。そこで、編集委員会の希望も考慮し、地震学会に対しては、補助金を年100万円に減額するという線で検討してもらうことにした。この件については、正式には運営委員会の議を経るべきであるが、地震学会の方でも検討してもらう必要があるため、このようなやり方をとった。

末広委員から地震学会の事情に関して次のような補足説明があった。(1)EPSに関する申し合せ事項の確認時においては、地震学会の法人化は想定されていなかった。(総会で法人化の案件は否決されていた。) (2)秋の学会で、地震学会の法人化の方針が可決され、多額の準備金が必要とされるに至った。現在、学会財政の見直しを進めるとともに、学会員などからも法人化へ向けて寄付金を募っている状態である。(3)地震学会として、EPS発行を支えていく意志に変わりはない。発行が困難になるようでは学会としても困るし、そのような場合にはできる限りサポートする覚悟がある。実際、JPEの発行が困難に陥った際には必要なサポートをおこなってきた実績がある。(4)地震学会としては、現時点でのEPS補助金の使用状況からみて、地震学会からの補助金の減額が可能であるならば検討していただきたい、ということである。

以上の報告を受けて、おおむね次のような議論がなされた (順不同)。

・地震学会の法人化という問題が新しく出てきたこと、文部省からの補助金が想定した額より多かったなど、EPSの発行は財政的には順調に進んでい

ること。この2点を考えれば、減額を認めてもよいのではないか。

- ・EPS発行については、各学会ができる範囲でサポートしようというのが本来の主旨であったと思う。「申し合せ事項」をあまりに厳格に考えて対処すると、逆に、本当にEPS発行が困難になったときに硬直した対応しかできず困ることにならないか。
- ・口約束でいいなら、わざわざ「申し合せ事項」をつくる必要はなかったはずだ。紳士協定である「申し合せ事項」がすぐに破られたことは、やはり問題ではないか。
- ・「申し合せ事項」は口頭での約束というだけではなく、やはりEPSの安定した発行を保証するために必要なものだと思う。
- ・3年間200万円ずつというのを6年間100万円ずつに変更できないか。
- ・「申し合せ事項」は3年後に見直すことになっており、補助金を6年間固定するのは適当ではない。
- ・補助金は、あくまで各学会からの自己申告によるものであり、他学会から強い異論は出せないと思う。

結論として、下記のことが確認された。

- (1) 地震学会では、「申し合せ事項」確認時に想定されていなかった学会の法人化の方針が1998年秋の学会総会で可決され、急遽多額の準備金を用意する必要が生じたこと。
- (2) EPSの発行に関しては、文部省からの補助金が当初想定していたよりも多かったなど、財政的にはひとまず順調なスタートをきっていること。
- (3) 地震学会から、EPS発行を支えていく意志に変わりなく、EPS発行が困難に陥るような場合には今後とも必要な補助をおこなう覚悟がある、との意思表示があったこと。
- (4) 以上の状況をふまえ、EPS運営委員会としては、当面の間、地震学会からの補助金を年100万円とすることを承認する。

4. テラバブ提案について

- ・提案1 (EPS掲載論文の著者、タイトル、アブストラクトをテラバブのホームページに掲載する)、提案2 (バックナンバーについてはtable of contentsを、Special Issueについてはcontents、prefaceをホームページに掲載し、価格を載せて注文に応じる) については、積極的に推進し、早急に実現すべきである、との結論になった。
- ・提案3 (第一線で活躍している研究者リストを整備し、EPSの内容紹介等のe-mail サービスをおこなう) に関連して、海外購読者拡大のため、各学

会からEPSを購読してくれそうな海外の研究者を推薦してほしいとの提案がテラバブから出されている。議長の方では、既に、IUGGのアブストラクトを利用して、セッションのコンピーナーを務めている研究者でEPSが全く送られていない国の人をリストアップし、宣伝用のEPSを送ってもらうようテラバブに手配した。(関連するかなりの分野をカバーしているが、惑星探査関係は漏れていると思われる。)各学会の在外会員などについては、簡単にリストが作れるので、早急にテラバブの方に知らせることにした。

5. 文部省からの補助金について

来年度の科研費の研究成果公開促進費では、従来の「欧文誌」の他に「特定総合欧文誌」(複数の学会等が協力体制をとって刊行する国際競争力の高い欧文誌)のカテゴリーが新設された。本蔵編集委員長と出版社(テラバブ)が文部省に出向いて検討した結果、EPSは両方のカテゴリーで補助金申請をおこなった。

現在、文部省への補助金申請書類などは、出版社に任せきりの面がある。今後はそれらの文書の管理やEPS購読数等について、運営委員会がきちんと把握するように努める。

6. EPSの内容の充実、購読拡大について

EPSの内容の充実、とりわけSGEPSS以外の分野からの投稿の充実、購読者の拡大のためにも非常に重要なさし迫った課題である。今回は編集委員会との合同の会議が予定されているが、それまでに各学会で、特集号の企画をはじめ、何らかのアイデアを検討しておくことにする。

EPSの編集については編集委員会が権限を持っており、運営委員会からEPSの内容に関しては物が言いにくい、一方で、編集委員会から見ると、購読拡大の方策などは運営委員会の仕事だと思われる。EPSの内容の充実、購読拡大とも密接にからんでおり、編集委員会との合同の会議はこの問題を議論する上でよい機会である。

EPSの宣伝についても、今後は出版社任せにせず、学会(運営委員会)として積極的に取り組むことを検討する。

どのような人がEPSを読んでいるかは投稿意欲に大きく影響する。主要な大学でEPSをとっていることを宣伝に使うべきである。

7. Research Newsの編集について

末広委員が海半球プロジェクトの記事を現在執筆中である。(Research Newsについては、運営委員会でEPS掲載にふさわしい内容かどうかを

チェックした後、編集委員会に送ってレビュープロセスを受ける。これは記事の内容や引用文献に間違いがあっては困るからである。ただし、最初に運営委員会の目を通してあるので、原則としてrejectになることはないと考えてよい。なお、記事はオリジナルでなければならず、他に掲載したものと同一の内容は不可。)宇都委員の方でも記事の執筆を検討する。

8. 運営委員会の日程について

(1) 運営委員会の開催は、年に3回程度とするのが妥当である。たとえば、12月(あるいは1月)、合

同学会の前(5月頃)、秋の学会前(9月頃)。(2) うち1回(12-1月?)は編集委員会と合同の会議を持つ。前年度のEPSの発行状況、編集状況、購読者数の変動等をふまえて、次の年度に向けてEPSの内容の充実、購読者獲得の方針等を議論し、編集委員会・運営委員会が共通の認識を持つ場にする。

9. 次回の運営委員会

今回は編集委員会との合同の会議を考えている。編集委員会と日程の調整をおこなった上で、早い時期に設定する。

NEWS

祝 受 賞 !

宇宙科学研究所の西田篤弘所長他が編集し、アメリカ地球物理学会から刊行した"New Perspectives on the Earth's Magnetotail" (磁気圏尾部研究の新しい展望) が、アメリカ出版社協会(American Association of Publishers)の専門書・学術書部門で1998年の物理学・天体物理学の最優秀図書に選ばれ、1999年2月10日に表彰された。

磁気圏とは、太陽のコロナから流出する太陽風によって地球の周辺に作られる構造であって、地球の磁場を閉じこめている。夜側の磁気圏は長大な尻尾になっており、これを磁気圏の尾部という。磁気圏尾部は太陽風から得られたエネルギーの貯蔵庫であって、オーロラや放射線帯のエネルギーはここから得られる。磁気圏尾部で働く加速機構「リコネクション(磁力線のつなぎ換え)」は磁気圏のみならず太陽フレアなどの天体現象においても基本的な過程であるため、磁気圏尾部の理解は天体物理学の一環としても意義が高い。

宇宙科学研究所はアメリカのNASAと共同で1992年にジオテイル(GEOTAIL)衛星を打ち上げ、磁気圏物理の解明をすすめてきた。今回表彰されたNew Perspectives on the Earth's Magnetotailはこの衛星による研究成果を中心として磁気圏尾部研究の最先端の成果をまとめたものである。総ページ数は339ページで、19編の論文のうち9編は日本人が筆頭著者として執筆した。

なお、編者はA. Nishida (宇宙科学研究所長)、D. N. Baker (コロラド大学教授)、S. W. H. Cowley (レスター大学教授)である。

1997年に専門書・学術書部門で表彰を受けた図書30冊の一部は下記のとおりである。

Computer Science: Information Storage and Retrieval, by R.R. Korfhage, John Wiley & Sons, Inc.

Engineering Handbooks: Steel Design Handbook, edited by A.R. Tamboli, McGraw-Hill

Mathematics: Three Dimensional Geometry and Topology, by W.P. Thurston, Princeton Univ. Press

Physics and Astrophysics: Encyclopedia of Acoustics, edited by M. J. Crocker, John Wiley and Sons

Medical Science: Atlas of Human Brain, by J. Mai, J. Assheur, and G. Paxinos, Academic Press

History: Black Jacks: by W. Jeffrey Bolster, Harvard University Press

Political Science: Civic Ideas, by R.M. Smith, Yale Univ. Press

Arts: The Civic Muse - Music and Musicians in Siena, by F.A. D'Accone, Univ. Chicago Press

情報提供: 松本 絃会員

地球電磁気・地球惑星圏学会評議員会議事要旨

河野 長

評議員会では、第19期から議事の内容を会報を通じて公表することにした。ただし評議員会の審議内容には、各賞の候補者の審査などそのままの形で公表するのは適当でない事項も含まれている。そこで、それらすべてを含んでいる「議事録」は公表せず、候補者の名前などをもって内容をいく分整理した「議事要旨」の形で会報にのせることになった。

今回は議事要旨の準備が遅れたために、第19期に開かれた5回分全部をまとめて発表することになってしまったが、お許しいただきたい。

I. 第19期第1回評議員会議事要旨

日時：1997年3月26日（水）

場所：名古屋大学共通教育棟

出席者：荒木、小川、大家、木村、河野、國分、鶴田、本蔵、行武

欠席者：西田、松本

1. 大林奨励賞

候補者推薦作業委員会の森岡昭委員長から選考作業の経過について説明があり、大林賞の受賞候補者として2名が推薦された。これらの説明を受け審議をおこなった結果、推薦された2名を受賞者とすることに決定した。

2. 運営委員会報告

第191、192、193回運営委員会について岩上総務担当運営委員から報告があった。主な内容は、JGG誌編集委員長交代、JGG誌についてのテラパブとの契約の改正、合同誌問題、合同誌に関わる内規の改正、第101回総会議事次第、決算と予算などであった。この報告に対して意見を交換し了承した。

3. 合同誌関連

本蔵評議員（合同誌編集委員長）から、進行状況等につき説明があった。内容は補助金の申請元をSGEPSSとすること、現在の外国人 Associate Editorsには手紙を出して謝意表し1997年からの交代をつけること、雑誌名を検討中であること、などである。

4. その他

当学会から各種学術賞へ推薦する件について検討した。

II. 第19期第2回評議員会議事要旨

日時：1997年10月3日（金）

場所：北海道大学理学部3号館

出席者：荒木、小川、大家、木村、河野、鶴田、西田、松本、行武

欠席者：國分、本蔵

1. 運営委員会報告

第194、195回運営委員会での議事について岩上運営委員（総務）から報告があった。主な内容はJGG誌のEPS誌への移行にともなう規約・内規の改正、シニア会員制度の検討、科研費審査員候補者及び学術会議研連委員の選出、2003年のIUGGの招致、第102回総会の議事予定などである。これらの報告について質疑や意見の交換をおこなった後に了承した。

2. 田中館賞

候補者2名の業績について推薦者から説明を受けた後に審査を行なった。更に意見交換をした上で可否投票を行なった結果、この2名に田中館賞を授与することに決定した。

なお、もう1名の候補者については書類の不備のため、改めて書類の提出を受けた上で、臨時の評議員会を開いて検討することにした。

3. 長谷川・永田賞について

運営委員会から候補者1名が推薦された。この候補者について検討した結果、学問上の業績と学会に対する貢献の両面から長谷川・永田賞にふさわしいとして、賞を授与することに全会一致で決定した。

4. 学会連合

会長から、合同学会と合同誌が現在学会間で共同事業として進められているが、今後(1)日本学術会議の地球物理関係研連の再編成、(2)2000年のWPGM（合同学会とAGUの共催）、(3)2003年のIUGGの招致など関連学会の組織面での連合も必要とされる事態が起こることが予想され、地震学会からこのような連合の可能性を検討するよう他の学会に呼びかけてもらうよう交渉中であるとの報告がなされた。この問題について自由な意見交換を行なったところ

● 合同大会連絡会は当初は学会連合組織をどうするかも含めて考えるはずであったが、現在はそのような機能は果たしていない。

- 単なる組織いじりでなく、全体の統合という究極の目標を明らかにし、今の動きはそれへの中間的ステップであることを明確にすべきである。
- 各学会毎に体質の違いがある。現実的にならないと先へ進めない。
- 統合することが本当に正しい選択か良く考える必要がある。他の学会と一緒にすることに本当にメリットがあるかどうか。
- 気象・海洋など現業をかかえている学会の統合は難しいが、学問をやっている人達は学会の連合としてのユニオンができれば入ってくるのではないか。
- 学会の大きさに差がつくようなやり方は良くない。学会連合を強化することはSGEPSSとしても他学会へ呼びかけた方が良い。

などの多様な意見が出された(ここでの議論では「各学会を基礎とした連合」および「各学会を統合した組織」という異なった内容をはっきり区別しないで各評議員が意見を述べている点に注意すべきである)。

これらの意見を参考にし、総会でも意見を求めた上で他学会への呼びかけなどを今後進めることになった。

III. 第19期第3回評議員会議事要旨

日 時：1998年4月10日(金)

場 所：東京大学理学部1号館

出席者：荒木、小川、大家、國分、河野、鶴田、
本蔵、行武

欠席者：木村、西田、松本

1. 田中館賞審査

前回保留された候補者について、推薦者から業績の内容とその専門に近い分野での評価について説明を受け、又質疑応答を行なった。その後、評議員の間で議論を行なった上で投票した。投票結果にもとづき田中館賞を授与しないことに決定した。

2. 学会連合について

会長から、5月25日(月)に地球物理学関連学会会長等懇談会を開くために、気象学会松野理事長、地震学会石田会長、およびSGEPSS河野会長名で呼掛けが出されることが報告された。SGEPSSからは会長のほかに、湯元運営委員、松本評議員、本蔵編集委員長が出席予定者として了承された。

3. 議事要旨の公開

会長から、これまで非公開だった評議員会議事録の一部を除いて会報に掲載するなどの形で公開し

てはどうかとの提案があった。議論の結果、賞の推薦や審査などに関わる部分で名前を伏せた「議事要旨」を議事録と別に作成し、こちらを公開することになった。なおこの件については、本日欠席の評議員から強い意見がでた場合には次回に引き続いて議論することとした。

4. その他

本歳評議員から、EPS誌、WPGM(2000年)、IUGG(2003年)などの進行状況について報告があった。

IV. 第19期第4回評議員会議事要旨

日 時：1998年5月27日(水)

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者：荒木、大家、木村、河野、國分、西田、
本蔵、松本、行武

欠席者：小川、鶴田

1. 運営委員会報告

湯元運営委員から運営委員会の活動について報告を受け、内容に関して質疑を行なった。(予算案の運営委員の旅費、Web上に会員名簿をおくことについてのセキュリティの問題等)。

2. 大林奨励賞審査

候補者推薦作業委員会の津田敏隆委員長から選考作業の経過について説明があり、大林賞の受賞候補者として2名が推薦された。

作業委員会が採用した賞の選考基準(博士号は必要、他の賞をとった人は対象としない、論文3編以内の推薦だけを要求)、田中館賞との関係、候補者2人の業績についての評価、などについて議論の後、全員一致でこの2名に大林奨励賞を授与することを決定した。

3. 学会連合関係

会長から、5月25日に開催された地球物理学関連学会会長等懇談会および5月28日の運営委員会での、学会連合、IUGG、WPGMなどについての議論の内容について報告があった。これに対し、以下のような意見が出された。

- WPGM開催の意義は第1回の時と比べると小さくなってきている。
- 学会連合の組織を作るなら、国連のように各学会の独立性を認めた上で共同事業に責任を持つ形式がよい。
- AGUやEGSの場合、SpilhausとかRichterといったマネジメント專業の人がいて切りまわしている。そういう人がいなければ単一組織にするのは無理。

- 合同大会の連絡会は必要だが意志決定機関ではない。連合として事務局を作る時期に来ている。
- IUGG 招致について 4000-5000 人で 2 億円の予算は少ないのではないか。京都で開いた URSI では 1200 人で 1 億 2000 万円かかっている。
- 連合組織は合同誌の場合と同様にやる気のある学会ではじめたらどうか。具体的には地震、火山、惑星と SGPSS の各学会。

4. その他

いくつかの学術賞につき当学会から候補者を推薦することにした。

V. 第 19 期第 5 回評議員会議事要旨

日 時：1998 年 11 月 11 日（水）

場 所：茨城県青少年会館

出席者：荒木、大家、國分、河野、鶴田、西田、
本蔵、松本、行武

欠席者：小川、木村

1. 運営委員会報告

岩上運営委員より第 197 回運営委員会（11 月 10 日）について報告があり、この内容について質疑を行なった。主な点は、(1) 文部省の学会誌補助の変更の可能性、(2) シニア会員制度について、(3) 科研費審査員の選挙について、などであった。

2. 田中館賞審査

5 名の候補者の業績についてそれぞれの推薦者から説明を受け、さらに質疑応答を行なった。まず選出する手続きについて議論し、以下のよう
に合意した。

「原則として年間 2 名以内を選出する。但し有資格者が 2 名以上あり、投票の結果第 2 位が 2 名あった場合は例外として 3 名のこともあり得る。」

各評議員がそれぞれの評価を述べ、さらに欠席の評議員の手紙も朗読したうえで順位を付した投票を行なった。開票の結果第 2 位と第 3 位が同票であったため 3 名に田中館賞を授与することに決定した。

3. 学会連合関連

会長から (1) 2003 年の IUGG 招致が学術会議の地球物理研連で決定したこと、(2) このため必要性の高まった学会連合組織の整備に向けて松野太郎、石田瑞穂、河野長の 3 世話人によって第 2 回の「地球物理関連学会会長等懇談会」を準備中であること、(3) その一環として各学会にアンケートを依頼しており、SGPSS としてどのよう

な選択肢を選ぶべきかについては電子メールによって議論がなされ、(4) 小野運営委員と河野で最終案を作ることになっていることが報告された。

これに対し学会連合の推進を指示する意見と、必要性は認めるが当学会の自主性を守るために慎重な対応が必要だとする意見が出されたが、会場の時間的制約のために結論には達しなかった。

4. その他

特別講演に学会のいろいろな分野のことがわかるようなレビュー的な講演を時々入れたらどうかという提案があった。

SGEPSS ホームページ掲示板・ フォーラムの電子メール配信について

SGEPSS ホームページ (<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss>) では、会員相互の情報交換を目的とした掲示板と自由な意見交換を目的としたフォーラムを設けており、電子メールによって記事を投稿することが出来ます。また、掲示板とフォーラムには、それぞれメールグループが設定されており、投稿された記事は、そのメールグループに流れるようになっています。

これまで約 60 名の会員がそれぞれのメールグループに登録されていましたが、この度、1998 年度版会員名簿の発行にあたり、出来る限り多くの会員の方々に掲示板の最新情報とフォーラムでの議論を知っていただく目的で、会員名簿に電子メールアドレスを掲載されている会員（約 340 名）の電子メールアドレスを、掲示板とフォーラムのそれぞれのメールグループに登録させていただきました。

この掲示板とフォーラムからの電子メールを受信することを希望されない会員は、速やかにメールグループから削除しますので、その旨のメールを次のアドレスに送ってください。

sgepss-request@kurasc.kyoto-u.ac.jp

また、会員名簿に電子メールアドレスを掲載されなかった会員で、掲示板およびフォーラムメールグループへの登録を希望される場合は、掲示板およびフォーラムごとに次のアドレスに電子メールを送ると自動的に登録されますのでご利用ください。詳しくは、ホームページをご覧ください。

掲 示 板：sgepssbb-request@kurasc.kyoto-u.ac.jp
フォーラム：sgepssfrm-request@kurasc.kyoto-u.ac.jp

人事公募

●宇宙科学研究所

このたび、下記の要領により教官公募を行いますので、広く適任者の推薦、応募を求めます。

1. 募集人員：教授 1名
2. (1) 所属部門：太陽系プラズマ研究系
磁気圏プラズマ物理学部門
(2) 勤務地：神奈川県相模原市由野台3-1-1
宇宙科学研究所
3. 専門分野と職務内容：
地球および惑星の磁気圏・超高層大気の研究。
当研究系では、これまで進めてきた地球電磁気圏・超高層大気の研究を基礎に、他の太陽系天体周辺の環境の理解へと研究対象を拡大しようとしている。多様な姿を示している太陽系天体の大気・プラズマの構造・運動を太陽風との相互作用という切り口から統一的に理解することが当面の目標である。関連分野の研究者とも協力しながらこの目標達成に向かって指導的な役割を担っていただける方を希望する。
なお、太陽系プラズマ研究系には、現在、向井利典教授、早川基助教授、斉藤義文助教授が在籍している。大学共同利用機関である本研究の役割を理解し、共同利用諸計画の遂行に積極的な役割を果たしていただく必要があります。
4. 着任時期：決定後できるだけ早い着任を希望。
5. 提出書類：
(1) 略歴 (2) 研究歴
(3) 論文リスト及び主要論文別刷り
(4) 研究計画書（自薦の場合）
(5) 他薦の場合/推薦書2通、自薦の場合/本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先。
6. 応募締切 1999年3月31日（水）必着
7.
(1) 提出先：
〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1
宇宙科学研究所 庶務課人事係
電話（代表）042-751-3911
(2) 問い合わせ先：
太陽系プラズマ研究系 鶴田 浩一郎
TEL 042-759-8185 FAX 042-759-8456
メール tsurada@stp.isas.ac.jp
8. その他：封筒の表に、「太陽系プラズマ研究系教授応募（推薦）書類在中」と朱書してください。選考は、宇宙科学研究所運営協議会において行います。応募者に適格者がいない場合は決定を保留することがあります。

●名古屋大学太陽地球環境研究所（2件）

【助教授公募】

1. 公募人員：助教授 1名
2. 所属部門：太陽圏環境部門（愛知県名古屋市）
3. 公募分野：上記部門では、太陽宇宙線・銀河宇宙線の加速機構と伝搬の研究、太陽風の加速機構と伝搬の研究を行っています。
今回の公募では全国共同利用研究所の職員として、宇宙線のモジュレーション等の太陽圏の研究に積極的に取り組んで下さる方を希望しています。
4. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
5. 提出書類：履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書；自薦の場合は本人について意見が述べられる方2名の氏名と連絡先を記入した書面、他薦の場合は2人の方からの推薦書。
*封書に「助教授応募書類在中」と朱書し、書留で送付のこと。
6. 公募締切：平成11年5月25日（火）
7. 宛先：
〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
教授 上出 洋介
電話：0533-89-5183 Fax：0533-89-0409
E-mail：kamide@stelab.nagoya-u.ac.jp
8. 問合せ先：
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学太陽地球環境研究所 東山分室
太陽圏環境部門 教授 村木 綾
電話：052-789-4314 Fax：052-789-4313
E-mail：muraki@stelab.nagoya-u.ac.jp
9. 選考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて同教授会で決定します。なお、該当者がいない場合は決定を保留します。

【助手公募】

1. 公募人員：助手 1名
2. 所属部門：電磁気圏環境部門（愛知県豊川市）
3. 公募分野：当研究部門では、欧州非干渉散乱（EISCAT）レーダー等の大型レーダーと大気光イメージング装置等を用いた地上観測、及び人工衛星利用等の手法により熱圏・電離圏・磁気

圏環境の研究を行っています。

今回の公募では、電波的・光学的観測手段を用いて電磁気圏環境の研究を進展させるとともに、全国共同利用研究所としての任務を十分に理解し、共同利用の促進に積極的に取り組んでいただける方を希望します。

4. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
5. 応募資格：大学院修士課程修了または同等以上
6. 提出書類：履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書；自薦の場合は本人について意見が述べられる方2人の氏名と連絡先を記入した書面、他薦の場合は2人の方からの推薦書。
*封書に「助手応募書類在中」と朱書きし、書留で送付のこと。

7. 公募締切：平成11年5月14日（金）

8. 宛先：

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13

名古屋大学太陽地球環境研究所

教授 上出 洋介

電話：0533-89-5183 Fax：0533-89-0409

E-mail：kamide@stelab.nagoya-u.ac.jp

9. 問合せ先：

〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13

名古屋大学太陽地球環境研究所

教授 小川 忠彦

電話：0533-89-5164 Fax：0533-89-1539

E-mail ogawa@stelab.nagoya-u.ac.jp

10. 選考：名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて同教授会で決定します。なお、該当者がいない場合は決定を保留します。

教官公募結果報告

- 神戸大学理学部地球惑星科学科
(1998年7月1日-8月31日公募)

所属：神戸大学理学部地球惑星科学科

職：教授

氏名：郡司幸夫

発令年月日：1999年4月1日

旧所属：神戸大学理学部地球惑星科学科 助教授

学会基金による 国際学術交流事業援助申請 募集

内容：

- (1)本学会講演会に参加する、主としてアジア諸国の研究者の来日旅費および滞在費（全額または一部）の補助。
- (2)外国で開かれる国際的な研究集会へ主として若手の会員が参加するための経費の一部の補助。
- (3)国際学術研究集会など広く国際学術交流に役立つ事業への補助。

採用数：(1)、(2)・・・併せて年間若干名

(3)・・・年間1件以内

応募：(1)は世話にあたる会員が、(2)は当該集会へ出席する会員が、(3)はその事業の責任者の会員が運営委員会に申請あるいは推薦する。なお、(1)、(2)には定型書式があるが、(3)の書式は自由。

選考：運営委員会

義務：当該活動終了後30日以内に本人、世話会員または事業責任者会員は運営委員会に報告書を提出しなければならない。この報告書は会報に掲載される。

*規定全文は名簿63ページ、過去の補助金受領者は78ページにあります。

研究助成案内

- 神奈川科学技術アカデミー研究助成募集

対象：神奈川県在勤・在往の若手（40才程度以下）

研究者が行なう先端的科学技術研究

金額：第1段階 50万円以内（8件以内）公募

第2段階150万円以内（前段階対象者のみ）

第3段階300万円以内（前段階対象者のみ）

〆切：3月10日

期間：年度末まで

問い合わせ先：

(財)神奈川科学技術アカデミー

学術交流部 交流普及課

〒213-0012 川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP 西棟6F

tel 044-819-2032 fax 044-819-2026

mail kast-sc@net.ksp.or.jp

SGEPSS Calendar

1999年

- 3月31日 1999年地球惑星科学関連学会合同大会 参加登録・宿泊登録 締切 (午後5時)
- 5月17日-21日 1999年環境電磁工学国際シンポジウム (本会協賛) 於 中央大学駿河台記念館
各種の電磁環境問題と関連技術を中心に発表・討論. 参加費4万円
- 5月31日-6月4日 AGU Spring Meeting in Boston, Massachusetts
- 6月8日-11日 地球惑星科学関連学会1999年合同大会 於 国立オリンピック記念青少年総合センター
- 7月18日-30日 IUGG99 XXII General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics
in Birmingham, UK
- 8月13日-21日 URSI XXXVIth General Assembly

2000年

- 10月2日-6日 The First S-RAMP Conference 於 札幌市

SGEPSSカレンダーは会員からのお知らせで成り立っております。国内外の学会、研究会、委員会、予稿締切等、皆様に広めるべきことがございましたら会報担当までお知らせください。

地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 松本 紘

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学超高層電波研究センター

TEL:0774-38-3805 FAX:0774-31-8463 e-mail: matsumot@kurasc.kyoto-u.ac.jp

総務 大村 善治

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学超高層電波研究センター

TEL:0774-38-3811 FAX:0774-31-8463 e-mail: omura@kurasc.kyoto-u.ac.jp

庶務 麻生武彦 (会報担当)

〒173-8515 東京都板橋区加賀1-9-10 国立極地研究所

TEL:03-3962-4756 FAX:03-3962-5701 e-mail: aso@nipr.ac.jp

運営委員会 〒113東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21 (財)日本学会事務センター気付

03-5814-5810 会員業務 (入退会、住所変更等、会費、会誌)

03-5814-5801 学会業務 (庶務、窓口、渉外)

03-5814-5820 ファクシミリ

入会申し込みは運営委員会宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。

会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ちしています。